

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年2月21日
函館市立港小学校

1 本年度の重点教育目標

自分の考えをもち 人とのかかわりながら 学び続ける子の育成

2 本年度の取組の重点

- 1 確かな学力・豊かな心、やりぬく力を育む授業づくり
- 2 わかる・できる喜びを実感させ、自らの学びにつなげる学習指導の充実
- 3 よりよい人間関係の形成、規範意識の高揚
- 4 心を豊かにする道徳教育の充実
- 5 日常的な健康・安全意識の醸成
- 6 目標達成に向け、果敢に挑戦する場の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
学校教育目標 重点教育目標	「育成したい資質・能力」及び「目指す子ども像を目指した指導計画の形成ができたか。	a	本校の「育てたい資質・能力」を明確化し、重点的に育てる。	A	A	港小の教育の根幹に全力で取り組んでくださったと思う。最優先が、対児童だと思うので、重視してこれからも続けてほしい。
学習指導	「確かな学力」を身に付けるために、授業改善を図り、基礎的・基本的な知識・技能を高め、学び合いを通して思考力・判断力等や学びに向かう力を育てる。	b	・重点的に育てたい資質・能力を3つ設定し、重点教育目標を改定する。 ・表現力育成を重視した取組を継続する。	A	A	参観日は落ち着いている。いつも緊張した状態だとよいのかもしれない。
道徳教育	「考え議論する道徳」を意識した道徳科の実践をする。	b	全教育活動で行動化に結びつく道徳教育を進める。	A	A	道徳で良い意見が出せた児童をたくさん褒め、認められることが行動化につながるか取り組んでほしい。
特別活動	修正した学級活動の年間指導計画を、実践を通して見直しを図る。	b	自己有用感・自己肯定感が高まる諸実践を進める。	A	A	
生徒指導	児童理解に基づく生活指導の機能を生かした学級経営の充実を図る。	b	「心の居場所」として互いが認め合える学年・学級経営の充実に努める。	A	A	欠員がいる中で、本当に先生方はがんばっている。
	いじめ、不登校等の組織的な取組を計画的に進める。	b	継続して計画的・組織的な未然防止、早期発見・早期対応に取り組む。	A	A	
	基本的生活習慣の定着を図る。	b	継続して中学校や保護者・地域と連携し取り組む。	A	A	送迎時の路上駐車が多かったが、学校側の毅然とした姿勢で保護者がきまりを守るようになった。
特別支援教育	支援が必要な児童の特性把握と個に応じた指導の工夫を図る。	b	早期に支援が必要な児童をピックアップし、見通しをもって支援していく。	A	A	
健康安全教育	体力・運動能力向上のための環境整備と指導の充実を図る。	a	体力調査等の結果を踏まえ、体力・運動能力が向上する指導の工夫に努める。	A	A	
今日的な教育課題	一人一台端末活用に関する研修、実践を進める。	b	積極的に研修と授業実践・公開を行う。	A	A	
業務改善	業務改善の取組の推進と、学年団や校務分掌の業務の見直しを図る。	b	交換授業や校務支援システムの有効活用等に取り組む、業務改善を進める。	B	B	人員不足もあり、業務改善が思うように進んでいない現状がある。
コミュニティ・スクール	CSの取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進する。	c	小中の教育課程の接続、保護者・地域の人材を生かした取組を一層進める。	A	A	CSに携わる人員の確保が必要になるため、来年度の職員は一の充実を望みます。幼保小の連携を図ってほしい。かけはしプログラムの作成も一緒にしたい。全校集会でのCS委員との顔合わせをきっかけにしたのが良かった。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。